



桐

K I R I

目黒学院高等学校同窓会事務局

〒153-8631 東京都目黒区中目黒1-1-50

電話 03-3711-6556

編集発行人 会長 市川 康 憲

URL: <https://www.meguro.ac.jp/Kiri/>



令和4年度会務報告



同窓会会長
いち かわ やす のり
市 川 康 憲
(昭和42年3月卒)

世界が感染拡大に苦しんだ3年間、同窓の皆様方におかれましては如何お過ごしでしたでしょうか。

残念ながら、私自身が感染するという事態に陥りまし

たが幸いに、症状が軽く高熱に苦しむことはありませんでした。感染でつらい思いをされた方がおられましたら、心からのお見舞いを申し上げます。

更に、新たな試練が起きてしまいました。20世紀は戦争の世紀と論評され、21世紀には、同じ過ちを犯す人類はいないだろうと思っていました。しかし、最悪の事態が始まってから既に1年が経過しております。

この戦争は、多かれ少なかれ全世界に悪影響を及ぼすであろうと心配せずにはいられません。1日も早く、平和な日々が訪れることを願っています。

会務報告

冒頭でも申し上げましたが、コロナ禍ではありました

が、感染対策に気を付けながら、令和4年7月23日土曜日に「目黒学院高等学校同窓会総会」を開催いたしました。この総会については、次の項目で述べさせていただきます。

今回の総会は令和7年となりますが、会場も内容も女性同窓生の意見を伺いながら、盛大に開催したいと考えております。

その他、役員会等開催実績は、令和4年4月23日、6月18日（オンライン）、7月16日、7月23日（総会）、9月11日（梧林祭）、11月13日（秩父宮・ラグビー応援）、令和5年2月18日、3月10日（卒業式）等、役員会の開催や学院諸行事に参加いたしました。

卒業式への出席は、3年ぶりになると思いますが、卒業生一人ひとりの表情は困難を乗り越えたからでしょうか、皆凛として大人の顔をしていたように感じました。同窓会からの記念品も、例年同様に「電波置時計」を贈呈いたしました。

4月5日の入学式は、近年では最も多い新入生352人で、目黒学院高校が発展している証左にほかなりません。同窓会としては「新事業」として、新入生に「紅白饅頭」をお祝いに贈呈いたしました。

総会開催報告

令和4年7月23日開催した総会は、前回の総会から4年目となります。開催に対する慎重な意見もありましたが、参加者が少数であっても開催すべきであると決断いたしました。

当日は、役員各位の協力と共に駆けつけていただいた同窓生、そして学校側の理解も得ながら、本校ラウンジで小規模ではありましたが有意義な総会を開催いたしました。

総会における挨拶としては、いくつかのお願い並びに提案をさせていただきました。その一つは、本校の入学希望者に女性が増えていることです。この傾向を考えれば、同窓会役員に女性卒業生の参画は不可欠であるという点です。参加いただいた女性卒業生の方々に同窓会運



「親子二代卒業生」への表彰模様

営への参画をお願いいたしました。

また、現在本会副会長が1名であり会長と2名で学院の諸行事に分担して参加対応しています。そこで、もう一人副会長を選出しておくべきと考え、急な提案ではありませんでしたが加藤明宏（昭和56年卒）氏を副会長（広報兼務）候補に推薦させていただき、承認を得る事が出来ました。

終了後は全員で記念撮影（表紙の写真）をし、思いに残る意義深き総会となりました。

同窓会の今後

同窓会の課題は多数ありますが、中でも役員としてお手伝いをして頂きたいこと、特に女性同窓生のお力をお借りしたいと考えております。

また、日々頑張っているクラブ活動が、もっと実り多くの結果と充実した活動ができるよう応援をしたいと思います。その意味で、毎年賛助会費を納入してくださる方々のお力添えに心から御礼を申し上げます。

報告

昨年6月、同窓会宛に1通の手紙が届きました。卒業生の坂倉綱徳（さかくらつなのり）さんのお兄さんからでした。

本校同窓生の坂倉さんは、昭和46年（1971年）、日本政府がメキシコに日本武道館を建設する計画グループの一員となりました。以来47年間、日本拳法連盟メキシコ代表として武道の普及に生涯を捧げられ、フランス、イタリアにも普及貢献をされてこられたそうです。

しかし、平成28年（2016年）現地において68歳のご生涯を閉じられた、とのお手紙でした。本校の卒業生のお一人としてご紹介させていただきたく、お手紙の一部を紹介させていただきました。

同窓生の皆様におかれましては、健康第一でお過ごしください。理事長・校長先生並びに教職員の皆様におかれましては、本学院発展へ更なるご尽力をお願い申し上げます。挨拶並びに会務報告といたします。



挨拶と学校の動向



理事長・校長

せき ぐち たか し
関 口 隆 司

男女共学12年目となりました令和4年度は、昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受けました。現在はやや落ち着きを取り戻しておりますが、依然として予断を許さない状況です。同窓生の皆様のご健康を心から祈念しております。

本年4月の新入生は、中学生30名、高校生352名（一貫コース内部進学生を含む）となりました。中学生、高校生とも1年生の生徒数が最多となっております。中学生の新入生のうち女子は3名、高校生の新入生のうち女子は165名となっております。卒業生の皆様におかれましては、何卒引き続き「新生・目黒学院」へのご支援とご協力を賜りたいと念願しております。

以下簡単ですが学園概況のご報告を申し上げます。

1. 学校行事等

令和4年度は、前年度のような時差登校等は実施しませんでした。6月に高校2年C組が、11月に中学2年1組を学級閉鎖せざるを得ない状況となりました。大きな行事では、入学式と卒業式は昨年度と同様、各家庭の保護者1名のみ参加可能といたしました。また、昨年度と同様に、芸術鑑賞及び各種海外研修旅行は中止とせざるを得ませんでした。一方で、オープンスクール（7月）、梧林祭（9月）、高校2年生の沖縄修学旅行（9月）は予定通り実施いたしました。3年振りの梧林祭は、すべての在校生にとって初めて経験する文化祭でしたが、来場者数は3年前の2倍以上と大盛況となりました。

2. 教職員の異動

専任教諭の柴雅彦先生および日下虎太郎先生、専任講師の林真琴先生、理科助手の大鶴陽郎先生が退任されました。一方、常勤講師の尾熊泉先生（保健体育科）を専任教諭に、非常勤講師の加藤恭祐先生（地歴公民科）を常勤講師にお迎えしました。

現在の専任教員数は60名（専任講師・常勤講師を含む）、専任職員数は9名（カウンセラーを含む）となっております。

3. 部活動の状況

関東大会以上に出場したのは、ラグビーフットボール部、空手道部、弓道部、水泳部でした。ご承知の通りラグビー部は全国大会東京都予選決勝で東京高校に勝利し、3年連続で花園出場を果たしました。3年ぶりの有観客試合となった花園では1試合に勝利してベスト32となりました。昨年に引き続き多くの同窓生の皆様からご寄付を賜りましたこと、まことにありがたく厚く御礼を申し上げます。また、水泳部の横内鼓太郎君が100メートルバタフライで全国大会に出場しました。

4. 大学進学状況

本校のホームページに大学進学実績を掲載しております。今年は横浜市立大学、茨城に合格者を出したほか、早慶上理10名、GMARCHにも相当数の合格者を出すことができました。生徒の大半が大学進学希望であることは変わらず、志望進路実現のために教職員一同なお一層真剣に取り組んでいく所存です。勉学であれスポーツであれ、真摯にかつ夢中で取り組み、自分自身の考え方にこだわりを持った「有言実行」の生徒を今後も育てていきたいと考えております。

5. その他

令和4年度は、経済的に就学が困難な生徒の保護者に対して学費を免除する規定に基づき、9名に対して維持費の全額免除を行いました。規程に基づき維持費を免除した場合には、同窓会からその一部をご援助いただく予定であります。



沖縄修学旅行



卒業式の日教室

卒業生の活躍



ヤマシタ 歯科医院
院長 山下 義豊
(平成5年3月卒)

昨年の7月に同窓会の総会があり、今回は母校開催ということで仕事終わりに失礼ながら急遽参加させていただきました。平成5年に卒業したので、かれこれ30年近くぶりに母校の門をくぐることになりました。僭越ではございますが、私の目黒高等学校（旧校名）での学生生活から現在までを今一度振り返ってみることにいたします。

入学して1年次はスキー部へ入部し、来るスキーシーズンに向けて顧問の近藤先生や土屋先生、諸先輩方の御指導の下、トレーニングに励んだ毎日でした。夏は東京都の大会が立山であったので万年雪で滑ったり、我が校のOBの先輩が新潟でペンション経営をされていたので部員でお世話になり、ペンションのお手伝いやスキーのご指導、時には山菜取りなどもさせていただいたり、東京だとなかなかできない貴重な体験をさせていただきました。学校の行事も学園祭や沖縄修学旅行、体育祭、プールや豊島園に行ったりと意外にもレクリエーションが多く、楽しかった思い出があります。

一方で学業の方はあまり得意ではなく、成績は学校生活を通してほぼ下位のほうが定位置。毎年ギリギリのところなんとか学年を上がっていく生徒だったので、学年末になるといつも補習を受けて先生方にだいぶご迷惑をおかけしたと今更ながら思う所存です。

そんな学生生活ではありましたが、祖父と父親が歯科

医師であり目指したい職業だったので2年生に上がったところに大学進学を決意し、部活動も退部して歯科大学を目指すことにして予備校に入り受験を目指し始めたのですが、進学レベルの学力がつくまで大手予備校や個人塾に通学しながら2浪の末にようやく現在の日本歯科大学生命歯学部に進学することができました。



大学生活では勉強や実習の毎日ではありましたが、ヨット部に在籍したので週末には海に通って年に一回開催される全国の歯科大学が参加する全日本歯学学生総合体育大会のレースに向けて練習していました。

自然相手のスポーツのため、たまに天候が荒れてヨットが転覆、漂流することがあり、その際に漁師さんに助けていただいたり、部員たちで励ましあったり協力しあいながらみんなで頑張りながら部活を運営していたのはいい思い出となっております。

しかし、大学が歯科大学なので今度は国家試験を通過しないと歯科医師になれません。そしてその国家試験を受けるためには大学を卒業しないといけないので、当時は卒業試験を3回受けて基準平均点より上回らないと卒業はおろか、国家試験を受けさせてくれないシステムだったため私には非常に過酷な試練でした。

しかしこの試験は、みんな同じ志を持った友人たちなので、お互いに助け合いをしながら一緒に乗り切って、ようやく歯科医師免許を取得することができたときは喜びよりもホッとした感情の方が強かったように思います。

歯科医師になってからは、かねてから実習を含めお世話になっていた歯科医院に就職させていただき、社会人としての生活をスタートすることになりました。

ここでは実践としての治療法はもちろんのこと、日々の患者さんとの向き合い方や考え方も指導していただき、師匠である院長から社会人になった初日に「学生生活までが『お勉強』、社会人になってようやく本当の『勉強』」だとお言葉をいただき、併せて「患者様を診てやっているという気持ちで診療してはだめだ、診させていていただいているという心構えで日々仕事をしなさい」と、常に謙虚であることが大事であるということをご指導していただき、今もその教を胸に日々の診療しております。

今こうして改めて振り返ってみると両親を含め随分と様々な人たちに出会い、支えられてここまで来たのだなと思っておりますが、将来の方向性の意志決定において私の場合は高校時代が初めて未来図を描いた分岐点だったよう



だと認識しております。

やはりどの過程においても人との出会いは大事で、いい出会いがあればあるほど自分も周りもが良い相乗効果を生んでお互いが成長していくのではないかと実感しております。

現在は杉並区和泉町、最寄り駅は京王線の代田橋駅で開業して日々診療しております。

「楽しい食事と素敵な笑顔」を目指して患者様のライフスタイルをお聞きした上で一緒に歩みながら治療方法をご提案させていただき診療しております。当院は主に保険診療を軸に診療しておりますが、スキャナ技術を取り入れた審美治療やマウスピース矯正など最新の治療にも力を入れているのが特徴です。ご卒業生の方、かみ合わせが合わない、もっときれいな歯にしたい等、歯でお悩みのことがあればお気軽にご相談ください。

◆ 母校の思いで ◆

人生の岐路となった分岐点と土器発掘



やす だ けん し
安 田 憲 二
(昭和41年3月卒)

思えば母校を卒業して57年が経ち“桐”に寄稿する機会を得ることになり高校生時代を踏まえて人生を回顧してみました。

1. 入学について

母校との出合いは、高校入試の失敗に始まります。

私は公立高校を志望しておりましたが、力およばずに不合格になりました。すべり止めの私立高校を受験せずに公立高校一校を目指していたため、高校進学はどうかと落胆し意気消沈してました。

そんな時に本校の二次募集があることを知り、受験して何とか入学することができました。その合格の発表日は、中学卒業式の間近かの謝恩会の練習日のことで、苦い受験の思い出です。

2. 考古学研究会（同好会）について

昭和39年（1964年）の2年生の時代は、日本およびアジア地域での初めて開催された第18回東京オリンピックや東海道新幹線の開業と日本の高度経済成長期でありました。そのような世況で東京近郊でもベッドタウンの宅地開発や東名高速道路の建設等が盛んに行われており、各地で遺跡の発掘調査がありました。

このような時代背景があり、考古学同好会が発足したと思われます。

(1) 考古学研究会の前身である同好会の創始者（初代リーダー）は、1年先輩の大沢三代治さん（普通科）でした。大沢さんとは生徒会で知り合い、2年生の夏休みに発掘調査に誘われて5名で参加しました。発掘場所は、静岡県清水市の東名高速道路建設予定地で現在の清水インターチェンジ付近の午王堂山遺跡です。我々が担当したエリアからは壺型土器（P6写真）が出土し、その年の梧林祭で展示（静岡大学から借用）しました。

大沢さんとは、卒業後も旧交を温めていましたが、残念ながら今は、物故者となりました。

(2) 本校の応接室に保管されている土器について

それは、1年先輩の飯島さん（機械科）の実家の畑から土器片が出てくるとの話があり、3年生の夏休みに国学院大学の学生と一緒に発掘調査をした時に出土した土器です。（下の写真、ケース内のもの）

名称；甑（こしき）

*現代では「蒸し器」です。底が空いています。

時代；弥生～古墳時代

（約2,500年前～西暦300年頃）

その出土した場所は、うろ覚えの記憶ですが現在の東



急田園都市線「あざみ野」駅の付近だと思います。

当時の昭和40年（1965年）は、まだ田園都市線は建設工事中であり、JR南武線の武蔵溝ノ口駅からバスに乗り国道246号線（厚木街道）を通り江田・元石川町に行った田園風景の豊かな丘陵地でした。田園都市線の建設工事で丘陵地がV字型に掘削され、その傍らの畑の場所でした。

保管されているガラスケースは、関口敏郎校長がポケットマネーで作製してくれました。

関東大震災の地震にも耐えて壊れずに出土した土器であり、今後も古代人の遺物として大事に保管して頂きたいと思います。

そして「温故知新」（ふるきをたずねてあたらしきをする）の言葉のように、以前に学んだことや昔の事柄を今また調べ直したり考え直したりする考古学の精神の大切さを育んでほしいと思います。

3. 人生を回顧して

今回のことを機会にして自分の人生を振り返って見ると人生の岐路となった分岐点は、三つあったと思います。

一つ目は、高校の入試です。

義務教育の小・中学校の9年間の義務教育は誰もが規定されているものですが、その後は就職もあり高校進学等と自由です。私は、工業高校に進学して卒業後は就職をする事に決めていました。

二つ目は、就職先です。

私は、三社を受験してお蔭さまで全て採用通知書を頂き、両親と相談してその内の一社に決めました。その会社を10数年前に無事に退職をしましたが、在職中に取得した公的資格が役に立ち現在もアルバイトをしています。



梧林祭に展示；午王堂山遺跡の壺型土器

就職先は、生き甲斐・働きたいを決める人生設計の根幹となるものです。

三つ目は、結婚です。

人生を共にするよき伴侶との出会いです。私の唯一の理解者である妻との出会いは、文中の2. (1) に記した遺跡発掘調査に妻も郷土研究会の一員として参加しておりそこで出会いました。不思議な運命を覚えます。

今を思う時、私の人生の岐路で全てが母校に入学したことが縁となりました。よい級友にも恵まれ、妻との巡り合いもあり、いい会社にも就職ができた忘れられない高校生活であったと思います。

故事に「人間万事塞翁が馬」とあります。

（人生の幸・不幸は予測しがたく、幸運も喜びに足らず不幸もまた悲しむにあたらない）との例えがありますが私の人生は、そのようなものを感じます。

4. 在校生に送る言葉

私が卒業時に関口敏郎校長に書いて頂いた色紙があります。（写真）

No pains No gains

（苦勞なくして得るものなし）

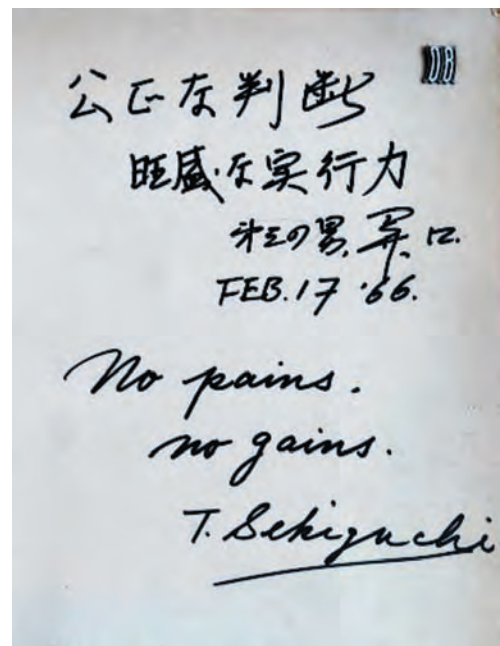
私の好きな言葉に

「夢は限りなく、努力は惜しみなく」

と言うものがあります。

皆さんもこれをモットーに勉学に励んでもらいたいと思います。

そして、今の一瞬一瞬を大事にして明るく楽しく元気に学校生活を過ごして下さい。



関口敏郎校長の色紙（直筆サイン）

教員紹介

学校生活を謳歌する在校生を見守る



教諭
あおきひろし
青木 寛
(平成12年3月卒)

2012年4月、私は12年ぶりに目黒学院に戻り、母校の教壇に立ちました。前年度には共学化を果たし、あの目黒に女子高校生が通っていました。当時はまだ、第1・第2学年に共学のクラスがそれぞれ3クラスのみ設置され、男子クラスがまだまだ多かった。それでも、「違う学校になってしまうのかな」と、強い違和感と寂しさを覚えました。しかしながら、「仰げ大空」と始まる校歌を聞き、教室には建学の精神である「明朗・勤勉・礼節」の額が掲げられ、職員室に入ってきた幡鎌先生と目が合い「おお～お前かあ～」と頭を撫でられ、背筋がピンと張ったとき、「やっぱり目黒に帰ってきたのだ」と実感し、身を引き締めたことを思い出します。

それから今年で12年目。目黒学院に勤めて以降、共学化の流れを追うように見て参りました。今や男子よりも女子の方が多いう年もあります。優しい線の細い男子に、活発で学校行事をぐいぐい引っ張る女子。少し抜けているけど、素直な高校生が集まる学校になったと感じています。生徒数も安定的に増加し、進学意識の高い生徒も多い。私が在学していたころよりも授業は落ち着き、自分次第でどんな進路でも実現できるし、そのように生徒をサポートする教員も多いように思います。目黒学院の共学化は時代のニーズだったのではないのでしょうか。

先に述べた建学の精神ですが、私が生徒だった頃はその字面だけを追っていました。が、今では明朗は前進向上する意欲、勤勉は自主創造の力、礼節は目上への敬意のみならず幅広い教養、とそれぞれに意味を持たせています。実際、学校行事では生徒の主体性を重んじた運営がなされています。修学旅行や一泊の校外学習では生徒が行程を組み立て、それを実現できるように調整を図っています。また、陸上競技会は体育祭に変わり、種目やルールは実行委員会を中心に決めていきます。コロナ禍以前の梧林祭では生徒による生徒のための中夜祭がおこなわれ、盛り上がりは最高潮を迎えます。生徒会担当の先生方の尽力もさることながら、生徒の行事に取り組む主体

的、前向きな姿勢は目黒学院の特徴となっています。

最近、校歌を高らかに歌う機会がありませんが、校歌斉唱の際には2番まで歌っています。私の頃は1番までしか歌いませんでした。恥ずかしながら、教員になって初めて全ての歌詞に目を通しました。どれも素敵な歌詞だと、改めて校歌を好きになりました。3番では「四季の光にみどり色濃き」と歌われます。いまや目黒川は桜の名所ですが、5月の若葉のころがおすすりめです。歌詞同様に、光が差すと新緑はキラキラと輝き、陰になるところは緑が一層濃く、そのコントラストがとてもきれいです。生徒たちには是非、歌えずとも、3番まで歌詞を覚えて卒業して欲しいと思っています。

やっぱりラグビー部の応援は盛り上がります。全校応援の思い出は、トライに沸き、スタンドで肩を組んで校歌を歌ったことと、あと一歩で花園を逃し、悔しさを滲ませた選手に精一杯の拍手を送ったことです。社会人として働き出すと、目黒ラグビーのブランド力に驚きました。営業先の部長級の方々は自分が目黒出身と聞くと必ずラグビーの話振ってきました。私は空手道部で、体育館の使用方法について幡鎌先生に3時間弱ほどご指導頂いたくらいでしたが、「目黒のラグビーの子が来た」と仕事の話もなく、それだけで受注したこともありました。今やラグビー部は3年連続花園出場。留学生だけでなく、各地から生徒が集まります。親元離れ仲間と青春を捧げ成長する姿は「頼もしい」の一言に尽きます。

伝統は引き継がれながらも、共学化を含め変化を続け、進化する。それが今の目黒学院ではないでしょうか。震災やコロナ禍、戦争に不安定な景況感。それでも目黒学院に居場所を見つけ、前向きに学校生活を謳歌する在校生たち。彼らの3年間は輝くこと。それこそ私たちOBが誇れる目黒学院であり続けることだと思っています。その成長を見守れることは、母校で教員となった私の「贅沢」かもしれません。



母校クラブ紹介①

◆女子バスケットボール部◆



女子バスケットボール部
顧問 かののひろこ
川野博子

女子バスケットボール部は2017年に高体連に加盟し、今年度で7年目を迎えました。創部当初は5名程の部員数も、現在では40名程となり活気ある中で活動を行っています。2021年には関東大会初出場を果たし、今年の新人大会では6位入賞とチーム最高成績を取ることができました。ここまで数年で駆け上がられたのは、男子バスケットボール部顧問の及川先生が、私が赴任する前から3名の女子部員を男子部員と同じように指導し、部活としての基盤を教えて下さっていたことが大きいと感じています。先輩後輩関係なく、みんなで準備片付けをし、みんなで協力して練習を行う。そんな雰囲気女子部として独立したあとにも継承しており、部の雰囲気が良いと言って下さる方が非常に多いように感じています。チームテーマは「GRIT SPIRIT」と「徹底」です。やり抜く心と、自分たちの決めた道を徹底的に追い求め、徹底的に楽しめる人間に育ってほしい。ここからもう一つ先へ、関東大会常連から高校生にとって夢の舞台であるWinter Cupに出場。この目標をはたせるよう邁進していきたいと思います。



母校クラブ紹介②

◆弓道部◆



弓道部
顧問 おくのやま なおや
奥山直弥

弓道部は、昭和30年に発足し、今年で創部69年目となる歴史と伝統のある部です。私が顧問となったのは平成23年度で、ちょうど目黒学院が共学化した最初の年にあたります。この年に入部した記念すべき最初の女子部員は、わずか1名。今から考えるととても勇気ある生徒だったと思いますが、男子部員と一緒に練習に励み、大会にも出場することができました。なお、当時合宿所であった山梨県甲府市の「富桐閣」は完全に男子専用のものであり、女子部員にとってはなにかと不便だったかと思います。トイレはもちろん男子用しかなく、お風呂は壊れていて近くの銭湯に行きました。部屋には鍵はついておらず、そもそも扉がちゃんと閉まらなかったような気がします。この場を借りてお詫び申し上げます。

それから12年の月日が経ち、令和4年度の部員数は、男子19名、女子39名。全体の人数も増え(活動にほとんど出てこない“幽霊部員”も多いですが…)、近年は女子が男子の数を上回り、ここ数年は女子が主将を務めています。中学生部員も3名います。「富桐閣」はその後老朽化のためついに使用禁止となり、現在は長野県野辺山高原の「帝産ロッジ」で合宿を実施しています。部屋の襖を開けると目の前が弓道場というユニークなつくりの合宿所で、コロナ禍により2年間中止が続きましたが、令和4年度は3年ぶりに実施することができ、38名の部員が参加しました。

令和4年8月に実施された東京都個人選手権大会では女子1年生部員が第19位に入賞し、関東個人選手権大会に進出しました。創部69年目にして、初の女子部員の上位大会進出です。全体としても、平成26年度の関東大会進出以来の快挙でもあります。また、この年は4名の部員が三段を取得することができました。

現在弓道部は、私と蕪山良隆先生、井手智洋先生の顧問3人体制で活動しています。また、週1回、目黒弓道連盟の大須賀啓三先生からのご指導を頂いています。部員達は大会での入賞、上位大会への進出、段位の取得を

目指して日々元気に楽しく練習に励んでいます。OB・OGの方々におかれましては、お近くにお越しの際は気軽に本館屋上弓道場まで足を運んでいただき、今後とも弓道部に変わらぬ応援を頂けると幸いです。



東京高校との死闘を制し、12-10で勝利。スタッフ、選手、保護者が嬉し涙を流した勝利でした。

2022年チームスローガン『飛翔』。花園直前には体調負傷者が続出し、予定していた合宿を中止する事態となりました。第102回全国大会は有観客開催となりました。12月28日の1回戦から登場し、福島県代表の勿来工業高校に83-0で勝利し、12月30日の2回戦はシード校である大阪府代表の大阪桐蔭高校に7-41で敗戦。2年連続の正月越えとはなりませんでした。キャプテンCTB菅瑞揮を中心にFWをPR瀧口聡大とFL小野寺正太郎、PR杉本龍輝、HO黒沼太晟、LOイライシア・サーフ、FL平坂亮輔、BKをSH門上龍慈とFB鳥居壮基、WTB古田竜也ら3年生が支えました。リザーブとして出場した3年生、登録メンバーに入ることができなかった3年生、24名の3年生が2022年のチームを3年連続の花園に連れて行ってくれました。2023年は、『飛翔』したチームをさらに越える『加速』をスローガンとして始まっております。

何かを成し遂げる「覚悟」を持ち、全ての人や環境に「感謝」し、目黒学院の生徒であったことに「誇り」を持って人生を進んでいってほしいと思います。



母校クラブ紹介③

◆ラグビーフットボール部◆



ラグビーフットボール部
 たけ うち けい すけ
 監督 竹 内 圭 介

第102回全国高等学校ラグビーフットボール大会報告

みなさまの応援のもと、3年連続21回目の全国大会出場となりました2022年。今年の3年生達は1年生の時から花園を知るメンバー。自分達の代で連続出場を止めるわけにはいかない！と強い思いでスタートしました。しかし、新人戦の準決勝では東京高校に10-36で大敗し3位。春季大会でも準決勝で東京高校に0-0の抽選負け。またもや3位でした。迎えた東京都予選決勝、3年ぶりに全校生徒の応援の中、今年2度負けている相手である

2022年度決算報告

2022年4月 1日から
2023年3月31日まで

2023年度予算書

2023年4月 1日から
2024年3月31日まで

(収入の部) (単位:円)

科目	予算額	決算額	摘要
同窓会費	2,976,300	2,976,300	@300×9,921ヶ月
入会金	420,000	420,000	210名分
賛助会費	500,000	637,100	184名分
総会費	0		
寄付金	0	100,000	母校からの祝い金
雑収入	20,000	20,178	会報掲載広告代及び預金利息
当期収入合計	3,916,300	4,153,578	
前年度繰越金	7,572,986	7,572,986	
収入合計	11,489,286	11,726,564	

(収入の部) (単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	増減
同窓会費	2,781,600	2,976,300	△194,700
入会金	644,000	420,000	224,000
賛助会費	500,000	500,000	0
総会費	0	0	0
寄付金	0	0	0
雑収入	20,000	20,000	0
当期収入合計	3,945,600	3,916,300	29,300
前年度繰越金	8,255,993	7,572,986	683,007
収入合計	12,201,593	11,489,286	712,307

(支出の部)

科目	予算額	決算額	摘要
総会費	60,000	51,703	
行事費	60,000	48,931	親子二代記念品代・参加者お土産代他
通信費	0	2,772	
雑費	0	0	
会議費	55,000	12,196	
役員会費	30,000	7,156	出席者お茶代等
委員会費	5,000	0	
通信費	20,000	5,040	委員会開催葉書代
補助費	380,000	350,000	
部・同好会補助	350,000	320,000	在校生部活動補助
文化祭補助	30,000	30,000	楳林祭お祝い金
事務費	515,000	388,943	
人件費	350,000	285,000	役員手当及び交通費
事務消耗品費	25,000	9,079	プリンタインク代
交際費	100,000	62,080	卒業謝恩会等祝い金
雑費	40,000	32,784	賛助会費等振込手数料・郵送料
会報費	2,006,000	1,870,579	
会報「桐」印刷費	375,000	361,680	13,700部
振込用紙及び印刷費	80,000	73,535	13,370枚
宛名用紙及び印刷費	130,000	117,656	13,370枚
封筒・封入作業費	220,000	205,898	13,370枚
発送費	1,200,000	1,109,710	郵便料83円×13,370名
雑費	1,000	2,100	振込手数料
記念品	673,000	397,150	卒業生記念品代267名分
奨学金	400,000	400,000	在校生奨学金
予備費	100,000	0	
当期支出合計	4,189,000	3,470,571	
次年度繰越金	7,300,286	8,255,993	
支出合計	11,489,286	11,726,564	

(支出の部)

科目	予算額	前年度予算額	増減
総会費	0	60,000	△60,000
行事費	0	60,000	△60,000
通信費	0	0	0
雑費	0	0	0
会議費	55,000	55,000	0
役員会費	30,000	30,000	0
委員会費	5,000	5,000	0
通信費	20,000	20,000	0
補助費	380,000	380,000	0
部・同好会補助	350,000	350,000	0
文化祭補助	30,000	30,000	0
事務費	515,000	515,000	0
人件費	350,000	350,000	0
事務消耗品費	25,000	25,000	0
交際費	100,000	100,000	0
雑費	40,000	40,000	0
会報費	2,001,000	2,006,000	△5,000
会報「桐」印刷費	416,000	375,000	41,000
振込用紙及び印刷費	52,000	80,000	△28,000
宛名用紙及び印刷費	60,000	130,000	△70,000
封筒・封入作業費	297,000	220,000	77,000
発送費	1,175,000	1,200,000	△25,000
雑費	1,000	1,000	0
記念品	670,000	673,000	△3,000
奨学金	400,000	400,000	0
予備費	100,000	100,000	0
当期支出合計	4,121,000	4,189,000	△68,000
次年度繰越金	8,080,593	7,300,286	780,307
支出合計	12,201,593	11,489,286	712,307

[特別積立金] (単位:円)

保管種別	本年度末	前年度末
定期預金	10,000,000	10,000,000

〔会計監査報告〕

私は、2022年4月1日から2023年3月31日までの2022年度における会計監査を行い、次のとおり報告する。
会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて監査を行った結果、公正かつ相違ないことを認めます。

2023年4月28日

会計監査 高澤 隆

2023年度予算について

2023年度収支予算は、2023年度の事業計画と2022年度の収支実績とを勘案して編成しました。

2022年度決算報告について

当初予算においては、単年度収支で27万円の支出超過を予定して開始されました。収入は予算に対して23万円増加し、支出は予算に沿って執行しつつ極力経費の節減に努めたことにより、予算に対して71万円の減少となりました。

この結果、単年度収支で68万円の収入超過となり、次年度への繰越金は825万円となりました。

1. 収入の部

同窓会費、入会金、雑収入は予算どおりの収受となり、賛助会費は予算比で13万円の増加となりました。また、総会開催時に母校から10万円の寄付金を収受しました。

この結果、収入合計では、予算に対して約23万円の増加となりました。

2. 支出の部

予算計上したすべての経常支出大科目において節減努力した結果、予算対比で71万円の減少となりました。

在校生に対する奨学金支出は、予算どおり40万円を執行しました。

1. 収入の部

同窓会費は772名、入会金は322名を収納予定人員と積算し、また賛助会費は前年の実績を勘案して延べ500口を収納予定として予算計上しました。

本年度は、総会・懇親会が開催されないことに伴い、総会会費については、予算未計上となりました。

2. 支出の部

本年度の事業計画は、①同窓会だより「桐」の発行、②在校生の部・同好会に対する補助、③入学祝い紅白饅頭と卒業記念品の贈呈、④在校生に対する奨学金支出等が主なものです。

これ以外の経常的運営費については、次回の総会・懇親会開催に備えて極力抑制した予算を編成しました。

この結果、次年度への繰越金は808万円を予定し、単年度収支では17万円の支出超過予算となりました。

同窓会賛助会費 納入者のご芳名

令和4年度分の賛助会費として、本年3月末までに納入のあった方は、
下記の184名の方々です。

★印は新規納入者

ア 青山 正和 秋本 康夫 浅野 進 安達 富夫 安達 博寿 綾部 渡 荒川 晴紀 有我 洋	ウ 梅沢 賢治 梅村 昭一	キ 木村 和雄 木村 義男	サ 佐藤 英幸 佐藤 元秀 狭山 正則 澤田 允孝	タ 武田 敬 武田 賢治 田崎 達 但野 澄夫 ★田所 恭一 田中 伸一 田中 道敏	ハ★原 周吾 原 哲也	ム 村木 開 村田 正義
イ 飯澤 敏之 飯田 諭史 飯塚 博徳 五十嵐 正宏 ★伊澤 隆哉 ★石神 俊和 石塚 修 石綿 健二 石渡 博巳 市川 康憲 伊藤 健一 稲葉 明夫 稲葉 孝司 乾 明成 乾 剛夫 岩井 宏樹 岩間 高志	エ 遠藤 力 遠藤 尚之	ク 草 敬三 桑川 疾風 栗田 幸之助 桑原 徳郎	シ 塩原 裕之 柴田 治男 ★清水 杏香 志村 教俊 蕭 欣志 新地 邦和	ツ 角田 公夫	ヒ 平井 洋 平野 啓二 廣木 正和	モ 森本圭三郎
★伊澤 隆哉 ★石神 俊和 石塚 修 石綿 健二 石渡 博巳 市川 康憲 伊藤 健一 稲葉 明夫 稲葉 孝司 乾 明成 乾 剛夫 岩井 宏樹 岩間 高志	オ 大石 龍輝 太田 雄貴 ★大谷はやと 大野 浩一 大場 敬介 大山 靖郎 岡本 定道 尾崎 雅彦 小佐田 吾郎 ★落合 信秋 ★小野 増夫 小野 寺正志	コ 小岩井 晃 ★幸内 良真 河野 大樹 巨海 貢 ★小島 将裕 小嶋 靖夫 ★小島 洋介 小清水 和敏 ★後藤 順二 ★後藤 善次郎 後藤 龍男 小林 一廣 小林 隆 小宮 アキラ 小宮 カズミ	ス★須賀 繁雄 須賀 雅治 須賀 義則 杉本 法男 鈴木 薫 鈴木 一雄 鈴木 正彦 鈴木 萌美	ト 東郷 東彦 東条 諭二 富樫 良一	ホ 深野 博 藤井 茂 藤兼 英夫 藤野 保 藤森 琢磨	ヤ 安井 忍 矢内 敏郎 矢部 あづさ 山口 和男 山口 邦治 山田 和博 山田 新吾 山本 大介 山森 敦
ウ★上田 憲治 上田 誠 宇藤 雄一 梅木 英雄	カ 柿ノ迫 国夫 ★角田 益夫 鹿島 節夫 加藤 明宏 香取 芳則 金子 幸治 神谷 守 ★川嶋 凌太 川瀬 年茂 ★川田 隆志	サ 齋藤 進 ★齋藤 浩 齋藤 泰之 齊藤 豊 齊藤 女進 五月 正勝 ★佐藤 定美	セ 瀬戸 晶義	ナ★中川 進 長原 光幸 中村 重和	フ 深野 博 藤井 茂 藤兼 英夫 藤野 保 藤森 琢磨	ヨ★横溝 孝 ★吉井 聡 吉澤 誠 吉田 章 吉田 晴彦 ★吉田 正則 ★吉野 怜平 米田 幸介
	ク 小岩井 晃 ★幸内 良真 河野 大樹 巨海 貢 ★小島 将裕 小嶋 靖夫 ★小島 洋介 小清水 和敏 ★後藤 順二 ★後藤 善次郎 後藤 龍男 小林 一廣 小林 隆 小宮 アキラ 小宮 カズミ	シ 塩原 裕之 柴田 治男 ★清水 杏香 志村 教俊 蕭 欣志 新地 邦和	タ 武田 敬 武田 賢治 田崎 達 但野 澄夫 ★田所 恭一 田中 伸一 田中 道敏	ハ★原 周吾 原 哲也	ム 村木 開 村田 正義	
	カ 柿ノ迫 国夫 ★角田 益夫 鹿島 節夫 加藤 明宏 香取 芳則 金子 幸治 神谷 守 ★川嶋 凌太 川瀬 年茂 ★川田 隆志	サ 齋藤 進 ★齋藤 浩 齋藤 泰之 齊藤 豊 齊藤 女進 五月 正勝 ★佐藤 定美	セ 瀬戸 晶義	ナ★中川 進 長原 光幸 中村 重和	フ 深野 博 藤井 茂 藤兼 英夫 藤野 保 藤森 琢磨	ヨ★横溝 孝 ★吉井 聡 吉澤 誠 吉田 章 吉田 晴彦 ★吉田 正則 ★吉野 怜平 米田 幸介
	キ 北根 益巳		タ 武田 敬 武田 賢治 田崎 達 但野 澄夫 ★田所 恭一 田中 伸一 田中 道敏	ハ★原 周吾 原 哲也	ム 村木 開 村田 正義	
	キ 北根 益巳		タ 武田 敬 武田 賢治 田崎 達 但野 澄夫 ★田所 恭一 田中 伸一 田中 道敏	ハ★原 周吾 原 哲也	ム 村木 開 村田 正義	

計184名
(内新規納入者30名)

賛助会費の納入をよろしくお願いいたします！

賛助会費：一口1,000円

賛助会費の納入にあたっては、これまで会報と一緒に郵便局用「払込取扱票」に会員各位の住所、氏名、会員番号等を印刷してご送付してきました。

しかし、本年からはメール便に個人を特定するものを封入出来なくなりましたので、同封の「払込取扱票」は「ご依頼人」に関する情報を印刷せずにご送付しました。

賛助会費は上段記載のとおり、毎年多くの会員からご協力をいただき、母校在校生への支援等に有効活用させていただいております。趣旨にご賛同いただける方は、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

賛助会費は一口1,000円で、口数は任意となります。

(注)

1. 納入にあたっては、同封の郵便局用「払込取扱票」をご使用のうえ、お振込みください。
お手数ですが、振込人の①会員No.②おところ(郵便番号)、③おなまえ、④TELをご記入ください。「会員No.」は、会報送付封筒の宛名ラベルに印字されています。なお、振込手数料は通帳・カード扱いの場合は、同窓会が負担いたします。
2. 以下の銀行口座へのお振込みもご利用出来ます。
 三井住友銀行 多摩支店
 普通預金 6786789
 口座名義 目黒学院高等学校同窓会

- ・お振込みの際には、会報送付封筒の宛名ラベルに印字されている会員番号を、振込人名の前に入れて下さい。
- ・振込手数料は、ご負担下さい。

◆同窓会役員氏名◆

令和4年度の総会にて、選任された本会の役員の方々は、次のとおりです。

なお、任期は令和7年の総会開催時までです。

役職	氏名	卒業年
会長	市川 康 憲	昭和42年
副会長	平井 洋	昭和38年
〃	加藤 明 宏	昭和56年 ※
相談役	木村 義 男	昭和30年
〃	土方 国 任	昭和31年
〃	安達 富 夫	昭和43年 ※
総務	鶴見 正 幸	昭和50年
〃	高木 英 二	昭和50年
〃	小林 秀 二	昭和53年
広報	小林 隆	昭和44年
〃	加藤 明 宏	昭和56年
〃	糸川 疾 風	平成31年 ※
会計	安達 富 夫	昭和43年
会計監査	高澤 隆	昭和42年
〃	糸川 疾 風	平成31年

(※印は広報、会計、会計監査を兼務します。)

◆恒例「親子二代卒業生」ご紹介◆

大 槻	大 (父)	平成5年3月卒
	凜 (子息)	令和5年3月卒
小野寺	正 志 (父)	昭和52年3月卒
	正太郎 (子息)	令和5年3月卒
黒 滝	弘 (父)	昭和49年3月卒
	一 郎 (子息)	令和5年3月卒
榊 原	俊 之 (父)	平成8年3月卒
	碧 惟 (子息)	令和5年3月卒
長谷川	友 一 (父)	平成4年3月卒
	風 斗 (子息)	令和5年3月卒
林 田	和 則 (父)	平成4年3月卒
	和 洋 (子息)	令和5年3月卒
檜	邦 英 (父)	昭和62年3月卒
	英 人 (子息)	令和5年3月卒
松 下	守 孝 (父)	平成2年3月卒
	あづき (子女)	令和5年3月卒

<お詫びと訂正>

前号No52号4頁掲載の「OB紹介」で梅木様のお名前に誤字がございました。

正しくは、「梅木英雄」様でした。

ここに訂正をし、深くお詫び申し上げます。

新入生おめでとう！



今年度より新入生全員に御祝いとして紅白饅頭を贈呈させて頂きました。

人材不足ではありませんか？

日本政府は深刻な人材不足の12業種を指定し、即戦力となる人材を受入れています。



特定技能制度とは？

日本がアジア各国政府の協力で、特定業種へ外国人材を受入れる制度です。

英語圏で日本が大好きな

フィリピンが中心です

フィリピンの日本語学校(MIT)や大学の日本語科と強固な協力関係があり安心です。

SUPPORT AGENCY
SilkRose

人材不足に関するご相談はお気軽に！

TEL 052-485-8545

出入国管理庁認定 21登-006767

シルクローゼ株式会社

FAX 052-485-8546

Mail silkrosenagoya@gmail.com

〒453-0016 愛知県名古屋市中村区竹橋町15番16号

ジュモール名駅WEST 7F



顧問：市川康憲

(昭和42年卒業)